



KATA D-Light ビデオケースカプセル 185DL

後藤写真事務所 後藤 究

Manfrottoのプレミアムブランドである「KATA」に新しく「D-light」シリーズが加わった。これはKATAの新たなブランドテーマである「ライトウエイト プロテクション」に基づいてラインナップされた3つのシリーズの1つで、ビギナーからハイアマチュアまでの、幅広い層向けに開発された製品が用意されている。

今回は、このD-lightシリーズの中から、ビデオケースカプセル「185DL」を紹介したい。

ビデオカメラの出し入れが容易

「185DL」の見た目は、まるでスポーツバックのようなイメージ。外形寸法が幅60×奥行34.5×高さ28cmでキヤノンXL H1クラスのサイズのビデオカメラを想定してつくられている。バックだけの質量はおよそ2.5kgで、とにかく軽い。ショルダーストラップで肩掛けて持つか、ハンドグリップを握り手で持つか、状況によって使い分けができる。ただ、ショルダース

両開きツールボックスのようにバックが分割して開く。出し入れがしやすいうえ、バックの中身が一目瞭然



ビデオカメラを固定するためのストラップや、ビデオカメラ本体とレンズの下側にズレがある場合に備えて、レンズマウントを傷めないための可動式のレンズピローが用意されている



トラップの肩のあたりの滑り止めの部分は、もう少し面積が広く厚みがあれば良いと感じた。

ビデオカメラの出し入れの仕方だが、バックの長辺の中心より若干ずれた場所にファスナーが付いていて、ぐるりとファスナーを開けることができる。すると、まるで両開きツールボックスのようにバックが分割して開くことができる。この機能はとても便利で、ビデオカメラの出し入れがしやすいうえ、バックの中身が一目瞭然である。

バックのセンターにビデオカメラを収めるスペースがあり、ビデオカメラを固定するためのストラップも用意されていて、持ち運びをする際にバックの中で不用意にビデオカメラが動かないような工夫がされている。また、ビデオカメラ本体の下側とレンズの下側の位置ズレがある場合に備えて、レンズマウントを傷めないための可動式のレンズピローが用意されている。ほかにレインカバーも付属されており、急な降雨にもバックを濡らさずに済む。

内部は黄色でとても視認性が良く、バックの中で細かな機材などもすぐに見つけることができるのだが、ポケットが2つしか用意されておらず、筆者としてはもう少し数を増やしてほしいのと、ポケットの中身が視認できればと感じた。筆者が5月号で紹介した同メーカーのビデオバックパック「VB-510」と比べてしまうと、ポケットの数やポケット内部の視認性といった点は劣るといわざるを得ない。ただ、これらのことは両シリーズのコンセプトと価格帯の違いなのだろう。

今回、別売のインサートローリーを使用していないが、これを使えば1人での撮影の際は、より楽にバックを運ぶことができるだろう。機材運搬のストレスから解放されそうだ。

価格：¥2万9400(税込) 発売：2010年4月16日
問い合わせ先：マンフロット 03-3405-6521 URL：
<http://www.kata-bags.jp>